



The Lotus News No.32

# 蓮通信

2006年12月18日発行 通巻65号

蓮文化研究会 The Lotus Japan

〒171-0052 東京都豊島区南長崎3-9-23  
事務局 ラボン・ファミユ 207 三浦功 大  
電話・FAX 03-3951-5630

URL <http://www.lotusjp.com>  
E-mail [tokyo@lotusjp.com](mailto:tokyo@lotusjp.com)

師走も半ばを過ぎましたが、皆様にはお変わりありませんでしょうか。蓮通信32号をお届けいたします。今年も会運営にご協力いただき有り難うございました。明年もよろしく願い申し上げます。

## 第九回蓮文化研究会総会開催のお知らせ

日時 2007年1月28日(日)

開場 13時

総会 13時30分～14時

引き続き蓮の情報交換会

講演会 14時30分～16時30分

講師 松山俊太郎先生(インド学研究者)

場 豊島区立勤労福祉会館 五階第五会議室

東京豊島区西池袋二・三七・四

電話 03-3980-3131

懇親会 17時頃より池袋近くの居酒屋で新年の懇親会を開きます。ご参加下さい。

会費 四、〇〇〇円

\*総会及び懇親会にご出席の方は、1月15日迄に同封用紙にご記入の上、事務局へ返信下さい。

\*総会にご欠席の方は1月15日までに、同封の委任状にご記入の上、事務局へ返信下さい。

総会には多くの方の出席を願っています。会員の方でまだお会いしたことがない方もいらつやいます。特に東京近県の方で、お時間の都合のつく方は、ご多忙とは存じますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

講師紹介 松山俊太郎先生は蓮文化研究会の創立から2年間代表に就任していただきました。先生は古代インド文学を研究するには、蓮の意を熟知しなければと、約50年にわたって蓮文献に関わり、古今東西の蓮に関する万巻の書籍を収集し読破してきた「蓮」研究の第一人者です。インドの古典叙事詩、仏典、中国・日本の古典を読破して蓮を研究してきて、インド、中国、日本の蓮の文化史を追求すると、あと一万年はかかると言い続けています。「我ハ犬なり」と言いながら蓮の研究を続けており、作家・小栗虫太郎の研究者でもあります。

事務局の電話番号が変わりましたので、お手元の電話番号帳の書き換えをお願い致します。尚、所在地は従来どおりです。

新電話・FAX 03-3951-5630

## 理事改選のお知らせ

現在の理事(第4期)の任期が来年の総会時に終了しますので、次期2年間就任する新理事の選出をお願い致します。必ずご投票下さい。

同封の投票用紙に理事推薦者4名をご記入の上、1月15日までに事務局へ返信下さい。ご考慮いただけるよう、会員の住所録を同封しました。返信用の封筒(切手貼付)を同封しています。

## 『蓮文化だより11号』 一月末発行予定

会員各位に原稿をお願いしました『蓮文化だより11号』は一月末発行予定で編集中です。今回は21名より玉稿をいただきました。特別寄稿はロシア極東のハバロフスク市で、野生蓮を研究しているタマウラ教授と、中国・黒龍江省で野生蓮を研究している薛教授にお願いしました。また、中国の蓮花神や荷花展、アメリカの観蓮会、インドネシアの蓮文様、オーストラリアの野生蓮の現状も紹介します。11号の判形は従来どおりA4版ですが、8ページ増えて48ページになりました。全頁カラーで印刷し、一月末の発送を予定しています。

## 会費納入のお願い

二〇〇七年度の会費納入をお願い致します。郵便振替用紙を同封しましたのでご利用下さい。

賛助会員 二〇、〇〇〇円  
夫婦会員 八、〇〇〇円  
一般会員 五、〇〇〇円

郵便振替番号

蓮文化研究会 00170-5-608708

## 新会員紹介(11月～12月に入会された方)

柴藤 勇(農業) 〒八二四・〇一一五

福岡県京都郡みやこ町光富

電話 0930-333

Mail [MLE58397@nifty.com](mailto:MLE58397@nifty.com)

## シルクロードからジパングへ

シルクロードの文物を主に収集し展示している、東京近郊の5つの博物館と美術館が、各館の収蔵品の特徴を展示した、5館共同企画「シルクロード植物文様展」が11月末迄開催された。松岡美術館は12月23日迄。5館が共通のテーマで展示をするのは、初めての試みと思われる。蓮文様の文物がたくさん展示された。古代オリエント博物館「シルクロード華麗なる植物文様の世界」・松岡美術館「中国陶器にみる植物文様」・神戸市立博物館「ガンダーラに見られる植物文様」・横浜ユーラシア文化館「アジアに見られる華麗なる植物文様」・馬の博物館「日本の馬具に見られる植物文様」。「華麗なる植物文様の世界」(山川出版、1800円)が上梓された。



デビュー以来、音楽の世界で国際的に活躍している加藤和彦(1947生)は、一九六〇年代「ザ・フォークルセルゲイ」で帰ってきた「ヨッパライ」や「悲しくてやりきれない」などをヒットさせた。続いて70年代初めには、「ハード・ロックバンド」「サデスティック・ミカ・バンド」を結成してイギリスでデビューさせた。団塊のおじさん・おばさん達には懐かしい、加藤和彦が率



いる「サデスティック・ミカ・バンド」が、30年ぶりに再結成された。その最初のCD「ナルキソス」(コロニア)のジャケットが、蓮の花(上)で飾られている。

# 育てる

蓮初心者

倉石あつ子

春も終わろうとしてある日、我が家のベランダに蓮の花が数鉢加わった。何年も蓮を育てて大きな花を咲かせている蓮文化研究会の会員の方お二人（池上正治氏・三浦功大氏）の指導を受けながら、知里の曙・天女の羽衣・薫風・紅領巾・東紅宿雨の5鉢の植え付けを行った。指導によると、まず土作りが大切とのこと。蓮が育つための良い環境の第一は、育つ土台の土作りということである。ご指示により、既に購入した荒木田土を容器に入れ水を加えて、ちょうど田圃の代掻きをする前の状態にしておく。当日、水を含んで軟らかくなった土にすぐ植え付けるのかと思いきや、さにあらず。ベランダに大の大人が三人座り込み、土コネをすること一時間近く。なかなか塊が小さくならない粘土質の田圃土。その塊を根気よく手でつぶし、最後に肥料を入れてもう一度よく混ぜる。そしてようやく植え付けという次第である。

さて、良い花を咲かせるためには、植え付けただけではいけない。指導員(?)の言うことには、一日6時間という日照時間を確保できる環境を作りつつ、きれいな花が咲くように願い、愛情をかけてやって下さいとのこと。生育環境と愛情が不可欠で、うん?どこかで聞いたような…。確かにものを育てるのには環境・愛情に加え、忍耐が必要である。5鉢のうち、4鉢は1週間後位には浮き葉が出て順調な生育状態を見せているが、残り1鉢は全く音沙汰なしである。毎朝、何はさておき鉢を覗き、水を与えるのだが一ヶ月余を過ぎて、その鉢からは葉っぱが出てはこない。そのうち、順調だった4鉢の内の天女の羽衣も葉っぱが縮れ、なにやら怪しげな状態に陥ってきた。

こんなとき、素人(私)はすぐに肥料でもくれてみれば何とかなるのではないかと水と肥料を与えてみたが症状はいっこうに改善されない。どうやら、私の行った手当は食べ過ぎの患者にもっと食べて、とばかりに食事を与えていたのと同じことをしていたらしい。葉が出なかった1鉢

は掘り返して植え直してみるとして、3鉢は現在すくすくと育っている。問題は、だめになりそうな1鉢をどうやって立て直したらいいのか、試行錯誤が続いている。ここまでは、2005年6月3日現在の状況である。

さて、その結果どうなったかというところ。白い花が咲くはずの薫風はどうしてもだめだった。天女の羽衣は浮き葉がでたところでもどまり、最後まで花は咲かなかった。もう、手当の方法も分からないので、これはほったらかしてみることにした。その他の3鉢は、初心者とも思えない見事な花が咲き、私はもちろんだが家族全員が喜んで、毎日ベランダに出て花を愛でた。全ての花が終わり、枯れ果てた木も10月ごろには刈り取り、根はそのまま冬越しをした。

そして、2年目の今年。蓮をはじめ全ての植木をかまっている暇のない私は、せっかく昨年大きな花を咲かせた蓮たちも、そのままほったらかしの状態が続き、気がついた時には既に知里の曙はかなりの背丈に生育。嬉しいことに天女の羽衣も順調に育っていた。しかし、残り3鉢は葉も生育せず、次第に葉の色も茶色味を帯び、ご臨終を迎えてしまった。夏休みの初日、3鉢を掘り返してみた。根は鉢の周りを回ってかなり増えていたが、細く腐ったような状態になっていた。増えた根を大きな鉢に植え替え、のびのびできる状態にしてやらなかったため、精根尽き果てたものらしい。ただし、薫風は全く芽を出す様子もなく、根がやせ衰えていた。それぞれに可哀想なことをしたと思うが、蓮を育てるためには、やはり日々の愛情を注ぐことに尽き



ると反省した次第。知里の曙も大きな花が4輪咲いたが、心なしか去年より一回り小さな花のような気がしてならない。私の良心が痛むせいかもしれない。また、天女の羽衣は本当に繊細な花で、色も柔らかい。よくぞ名付けたと思うような風情であった。しかし、他の蓮は知里の曙のように木も花も大きかったので、天女の羽衣が全体にあまりにも小さすぎて、本当にこれで順調に育っていたのかは、私には今もって不明のままである。こんなに人を楽しませている考えさせぬ蓮だが、さて、来年はどうしたものか。ベランダの日溜まりの中で、孫の泥遊びを兼ねて、植え替えをしている私自身を思い描いて今から楽しんでるのだが。

